

授業科目名	建築設計製図Ⅰ		必修/選択	必修	授業時間数(50分)	279 時間	
担当者	横山 陽一 篠田 秀明 前田 裕希 中瀨 幸志郎 富永 勝弘 古川 公一郎		担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事 設計監理業務等に従事 現場管理・施工管理業務等に従事 構造設計・構造計算業務等に従事 高等技術専門学校教員として従事 高等技術専門学校教員として従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科	1年	開講時期		前期	後期	○ 通年
到達目標	1.製図用器具の使用法と建築製図通則を理解する。 2.建築図面の内容を理解し、木造の図面を手書きにより作図することができる。 3.木造の構法を理解し、各種の必要図面を手書きにより作図することができる。 4.透視図法を理解し、建築模型を製作することにより、建築を立体的に捉える力を養う。						
授業形態	○ 講義		実習	△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容					備考
	1~3	製図の基本と製図用具の使い方					
	4~15	線の引き方と文字の練習					
	16~30	透視図法によるパースの作図					
	31~60	建築模型の製作					
	61~189	木造の設計製図及び設計演習(木造専用住宅)					
	190~279	木造の設計製図及び設計演習(木造併用住宅)					
評価方法	日常の授業態度，出席率，課題の提出状況，定期試験等を総合的に判断して行う。						
教科書・参考図書	初めての建築製図（学芸出版社） 模型づくりからはじめる建築基礎製図の基礎						
関連科目	建築計画Ⅰ，建築計画Ⅱ，建築CAD設計演習Ⅰ，建築CAD設計演習Ⅱ，建築一般構造						
連絡事項	定期試験として，各期末に課題実績を評価（計2回）する。 評価範囲や配布資料等については，随時連絡する。						

授業科目名	建築C A D設計演習 I	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	77 時間
担当者	福ヶ迫 航	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期	後期
				○	通年
到達目標	建築CADソフトにおいて基本的な作図方法の習得、及び自らの建築知識をもとに、建築図面を作製する力を身につける。				
授業形態	○ 講義		△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~13	パソコンの基本操作習得			
	14~26	Jw-cadの基本			
	27~39	作図・編集コマンドの基本操作			
	40~52	RC造集合住宅の図面の作図			
	53~65	木造間取図の簡単作図法			
	66~77	CAD検定試験へ向けての演習			
評価方法	日常の授業態度と出席率、定期試験の結果を総合的に判断して評価する。				
教科書・参考図書	Jw_cad 徹底解説 操作解説編 (エクснаレッジ)				
関連科目	建築設計製図 I				
連絡事項	定期試験として、各期末に試験を実施 (計2回) する。 試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については、随時連絡する。				

授業科目名	建築計画Ⅰ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	62 時間
担当者	前田 裕希	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期	後期 ○ 通年
到達目標	1.独立住宅の配置計画,平面計画,断面計画についての基本を説明ができる。 2.独立住宅の計画ができる。 3.ビルディングタイプ(集合住宅, 小学校, 幼稚園・保育所, 図書館・美術館)の内容について説明ができる。				
授業形態	○ 講義	実習	△ 演習	※ 主たる方法:○ その他:△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~4	建築計画とは(建築計画の概要と意義)			
	5~7	独立住宅の建築計画における基本知識①(平面形式と原則)			
	8~10	独立住宅の建築計画における基本知識②(配置計画)			
	11~14	独立住宅の建築計画における基本知識③(諸室の計画)			
	15~16	独立住宅のエスキスの手順について説明			
	17~27	課題①を用いた独立住宅の計画(エスキス)			
	28~34	集合住宅の計画			
	35~41	小学校の計画			
	42~48	幼稚園・保育所の計画			
	49~55	図書館の計画・美術館の計画			
	56~62	高齢者等に配慮した建築計画			
評価方法	日常の授業態度と出席率, 定期試験及び独立住宅の課題を総合的に判断して評価する。				
教科書・参考図書	「図説やさしい建築計画」(学芸出版社), 「新建築」など建築雑誌, コンパクト建築設計資料集成(丸善)				
関連科目	建築設計製図Ⅰ, 建築史, 建築設計製図Ⅱ, 建築計画Ⅱ, 卒業設計				
連絡事項	1.定期試験として実施する前期末試験は独立住宅の基本知識について出題する。 2.試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 3.後期末は課題実績を評価する。 4.配布資料等については, 随時連絡する。				

授業科目名	建築史	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	62	時間
担当者	前田 裕希	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期		後期 ○ 通年
到達目標	各国，各時代の社会的・文化的背景に基づく建築様式や，技術の変遷発展の実相を説明できる。					
授業形態	○ 講義		実習		演習	※ 主たる方法：○ その他：△
授業計画	回数	授業内容				備考
	1~2	建築史概論（建築史の学習目的，考え方，時代区分）				
	3~7	古代西洋の建築（古代ギリシャ建築，古代ローマ建築）				
	8~12	中世西洋の建築（初期キリスト教建築，ビザンツ建築，ロマネスク建築，ゴシック建築）				
	13~17	近世西洋の建築（ルネサンス建築，バロック建築，新古典主義建築・歴史主義建築）				
	18~22	古代日本の寺院（飛鳥・奈良様式，密教・浄土教寺院，和様）				
	23~27	中世日本の寺院（大仏様，禅宗様，新和様）				
	28~30	古代日本の神社（神明造，大社造，住吉造）				
	31~33	中世日本の神社（流造，春日造，八幡造）				
	34~36	近世日本の神社（権現造）				
	37~40	近代西洋の建築（産業革命，アーツ&クラフト，アールヌーボー）①				
	41~44	近代西洋の建築（ゼツェッション，ドイツ表現主義，デスタイル）②				
	45~48	近代西洋の建築（ドイツ工作連盟，バウハウス，CIAM）③				
	49~54	近代日本の建築（洋風建築，擬洋風建築）①				
	55~60	近代日本の建築（分離派建築会，耐震理論の展開，帝冠様式）②				
61~62	近代日本の建築（戦後復興期の建築，高度成長期の建築）③					
評価方法	日常の授業態度と出席率，定期試験の結果を総合的に判断して評価する。					
教科書・参考図書	カラー版 図説 建築の歴史（学芸出版社）					
関連科目	建築史，建築計画Ⅱ，卒業設計					
連絡事項	定期試験として，各期末に試験を実施（計2回）する。 試験時間は50分とする。（計算機の持込可） 試験範囲や配布資料等については，随時連絡する。					

授業科目名	構造力学Ⅰ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	62	時間
担当者	福ヶ迫 航	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期		後期 ○ 通年
到達目標	静定構造物の力の釣り合いと応力計算について理解を深める。					
授業形態	○ 講義		△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容				備考
	1~9	力の基本, 力の合成と分解				
	10~15	力の釣り合い				
	16~17	構造物の判別				
	18~20	構造物と荷重及び外力				
	21~36	静定構造物の反力算定について				
	37~46	静定構造物の梁の応力算定について				
	47~56	静定構造物のラーメンの応力算定について				
	57~62	静定構造物のトラスの応力算定について				
評価方法	日常の授業態度, 出席率, 課題の提出状況, 定期試験等を総合的に判断して行う。					
教科書・参考図書	解きながら学ぶ構造力学 (学芸出版社)					
関連科目	建築一般構造, 建築構造設計					
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施 (計2回) する。 試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。					

授業科目名	建築一般構造	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	93	時間
担当者	木元 達也	担当者実務経験		設計監理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期		後期 ○ 通年
到達目標	1.建築物がどのように構築されているかを形式別に学ぶ。 2.木構造, 鉄筋コンクリート構造, 鉄骨構造の特徴と手法を学ぶ。 3.その他の構造についても特徴と手法を学び, 共通する仕上げの手法を理解する。					
授業形態	○ 講義		実習		演習	※ 主たる方法: ○ その他: △
授業計画	回数	授業内容				備考
	1~16	建築構造の概要				
	17~32	木構造: 特徴と構造形式, 軸組構法, 枠組壁工法, 大断面集成材を用いた構造				
	33~48	鉄筋コンクリート構造: 特徴と構造形式, 配筋, 基礎や主体の構造				
	49~63	鉄骨構造: 特徴と構造形式, 接合, 骨組				
	64~78	その他の構造: 補強CB造・プレストレストコンクリート構造				
	79~93	仕上げ: 外部仕上げ, 内部仕上げ, 開口部の仕上げ				
	評価方法	日常の授業態度, 出席率, 課題の提出状況, 定期試験等を総合的に判断して行う。				
教科書・参考図書	図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社)					
関連科目	建築材料, 建築構造設計, 建築施工Ⅰ, 建築施工Ⅱ					
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施 (計2回) する。 試験時間は50分とする。 (計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。					

授業科目名	建築材料	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	32	時間
担当者	横山 陽一	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期	○	後期
到達目標	1.建築物は、地震や台風、火災などに強く、機能性・快適性・耐久性・経済性に優れていなければならないことを理解する。 2.各種建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法を理解する。					
授業形態	○	講義		実習		演習
	※ 主たる方法：○ その他：△					
授業計画	回数	授業内容				備考
	1~10	建築材料総論：建築における材料の選択と使用方法等				
	11~16	木質材料：木質材料の建築材料としての基本的な特性等				
	17~26	コンクリート：セメント，骨材，混和剤の特性等				
	27~32	その他の材料：金属材料，石材，ガラス等				
	評価方法	日常の授業態度，出席率，課題の提出状況，定期試験等を総合的に判断して行う。				
教科書・参考図書	図説 やさしい建築材料（学芸出版社），ビジュアルハンドブック必携建築資料（実教出版）					
関連科目	建築一般構造，建築施工Ⅰ，建築施工Ⅱ					
連絡事項	定期試験として，後期末に試験を実施する。 試験時間は50分とする。（計算機の持込可） 試験範囲や配布資料等については，随時連絡する。					

授業科目名	建築施工Ⅰ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	62 時間
担当者	横山 陽一	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期	後期 ○ 通年
到達目標	1.各種工事の流れの理解，工事現場における施工及び施工管理の基礎知識を習得する。 2.新しい材料や施工技術に対応できる応用的な建築施工の知識を習得する。				
授業形態	○ 講義	△ 実習	△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1～20	施工概論(建築生産，建築工事，施工計画，積算，管理計画)			
	21～40	躯体工事(測量，地盤調査，仮設工事，土工事，地業・基礎工事等)			
	41～62	仕上げ工事(防水工事，石工事，タイル工事，木工事等)			
評価方法	日常の授業態度，出席率，課題の提出状況，定期試験等を総合的に判断して行う。				
教科書・参考図書	建築施工 基礎教材(井上書院)				
関連科目	建築一般構造，建築材料，建築測量				
連絡事項	定期試験として，各期末に試験を実施（計2回）する。 試験時間は50分とする。（計算機の持込可） 試験範囲や配布資料等については，随時連絡する。				

授業科目名	建築法規Ⅰ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	46 時間
担当者	篠田 秀明	担当者実務経験		設計監理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期	前期	後期	○ 通年
到達目標	1.建築基準法の概要を理解する。 2.面積、高さ、採光等の計算方法を理解し、算定できる力を身につける。 3.建築手続きの流れを理解する。				
授業形態	○ 講義	△ 実習	△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1～6	建築法規の起源、意義、建築基準法の構成			
	7～11	用語の定義			
	12～16	面積・高さの算定			
	17～21	採光・換気・天井高さの算定			
	22～26	建蔽率			
	27～31	容積率			
	32～36	高さ制限			
	37～41	構造計算・構造強度（木造）			
	42～46	確認申請・建築手続き			
	評価方法	日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、定期試験等を総合的に判断して行う。			
教科書・参考図書	建築法規概論（実教出版）、やさしい建築法規（学芸出版社）、建築関係法令集（総合資格学院）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ、建築計画Ⅰ、構造力学Ⅰ、建築施工Ⅰ				
連絡事項	定期試験として、各期末に試験を実施（計2回）する。 試験時間は50分とする。（法令集の持ち込み可） 試験範囲や配布資料等については、随時連絡する。				

授業科目名	建築測量	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	48 時間	
担当者	横山 陽一 篠田 秀明	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に從事 設計監理業務等に從事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期	○ 後期	通年
到達目標	既存建物の位置や形状を把握するうえでの基本的な計測方法及び建築物を造るために必要な計測方法など、建築物の計測に関わる技術の習得を目指す。					
授業形態	講義	○ 実習	△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容			備考	
	1～8	建築測量概論				
	9～16	測量技術の変遷, 基準, 位置の表し方, 基本的な三角関数				
	17～24	測量機器の取扱				
	25～32	距離測量				
	33～40	平板・敷地測量				
	41～48	水準測量				
	評価方法	日常の授業態度, 出席率, 課題の提出状況, 定期試験等を総合的に判断して行う。				
教科書・参考図書	プリント配布					
関連科目	建築施工Ⅰ					
連絡事項	実技試験として, 試験を実施し, 評価点とする。 試験内容や配布資料等については, 随時連絡する。					

授業科目名	建築実務Ⅰ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	62	時間
担当者	福田 真樹子 大久保 由紀	担当者実務経験		設計監理業務等に従事 設計監理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期		前期	後期	○ 通年
到達目標	1.インテリアを考える上で必要になる基本的な知識や設計・表現方法を習得する。 2.建築設計・工事監理、あるいは建築施工管理の実務にかかわる実践的知識を理解することにより、社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力を身につけ、自立的活動ができる技術者としての自覚を形成する。					
授業形態	○ 講義		△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容				備考
	1~4	インテリア概論				
	5~12	インテリアコーディネートを進め方				
	13~22	インテリアコーディネート演習				
	23~42	現代建築と建築家				
	43~50	デザインについて				
	51~62	伝統建築について				
評価方法	日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、定期試験等を総合的に判断して行う。					
教科書・参考図書	世界で一番やさしいインテリア（エクснаレッジ）、プリント配布					
関連科目	建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ					
連絡事項	定期試験として、各期末に課題実績を評価（計2回）する。 評価範囲や配布資料等については、随時連絡する。					

授業科目名	一般教養A	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	45 時間
担当者	福ヶ迫 航	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 1年	開講時期	○	前期	後期 通年
到達目標	パソコンの初期設定及び基本操作の習得，ワープロソフトWord，表計算ソフトExcel，プレゼンテーションソフトPowerPointそれぞれの基本的な使い方を習得する。				
授業形態	○	講義		△	演習 ※ 主たる方法：○ その他：△
授業計画	回数	授業内容			備考
	1～5	パソコンの基本操作習得			
	6～10	パソコンの初期設定			
	11～20	ワープロソフトWordの基本操作			
	21～30	表計算ソフトExcel基本操作			
	31～45	プレゼンテーションソフトPowerPoint基本操作			
評価方法	日常の授業態度，出席率，課題の提出状況，定期試験等を総合的に判断して行う。				
教科書・参考図書	プリント配布				
関連科目	一般教養B				
連絡事項	定期試験として，前期末に試験を実施する。 試験時間は50分とする。（パソコンの持込可） 試験範囲や配布資料等については，随時連絡する。				